

夏休みの間に学校の成績を大幅に向上させるにはどうしたらよいか  
- 自分の行きたい学校に受かるだけの学力をつけるにはどうしたらよいか -

開倫塾  
塾長 林 明夫

## 1. はじめに

(1) おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2) 毎日暑い日が続いていますね。今日は、「夏休みの間に学校の成績を大幅に向上させるにはどうしたらよいか、自分の行きたい学校に受かるだけの学力をつけるにはどうしたらよいか」についてお話をさせていただきます。

## 2. 夏休みの間に学校の成績を大幅に向上させるにはどうしたらよいか - 自分の行きたい学校に受かるだけの学力をつけるにはどうしたらよいか -

(1) 一番大事なことは、「なぜ勉強するのか」という自分なりの勉強の意味を明確にし、自覚することです。自分のやっていることは何なのかがよくわからなければ、また、それを認識して自分自身に言い聞かせなければ、成果の上がる勉強はできません。

(2) 仕事も同様で、自分のしている仕事が世の中のためにどのように役立つのか、お客様のためにどのように役立つのか、自分自身のためにどのように役立つのかがはっきりわかっている場合と全くわかっていない場合とでは、結果に大きな違いが出ると思います。

(3) 受験生で、何のためにこの受験をするかがはっきりわかっている方は、気構えが出てきますので、生活の仕方がまるっきり違ってきて、相応の勉強ができます。

(4) 仕事に就いている方で、私は何のためにこの仕事をしているのか、私の仕事はお客様のためにどのように役立つのか・社会のためにどのように役立つのかがはっきり認識できている方は、仕事に対する気構えが違い、その結果お客様や社会に与える影響も変わってくると思います。また、自分のやりがいもガラッと変わると思います。

(5) これらのことから、勉強をする場合にも、仕事をする場合にも、一番大事なものは、本人の自覚であると思います。自覚を持って勉強をする・自覚を持って仕事をする・自覚を持っているな活動や行動をすることが一番大事なのです。

- (6)ただ、自覚を持ったほうがよいとはいっても、そもそも自覚とは何かということがわかっていなければ話になりません。そこで次に、「自覚」についてお話をさせていただきます。
- (7)自覚とは「自分自身の立場や状態、能力などをよく知ること、わきまえること」と国語辞典にはあります。小学校・中学校・高校・大学・大学院・専門学校等で勉強する方は、自分は小学生だ・自分は中学生だ・自分は高校生だ・自分は大学生だ・自分は大学院生だ・自分は専門学校生だということを自分自身によく言い聞かせ、その立場をわきまえるとよいと思います。もちろん来年の春に受験生に臨む受験生の方も、自分は受験生であるという立場をよく知ること・わきまえることが大事です。
- (8)わきまえるとは、その立場に応じた行動をとることであると私は考えます。ですから、小学生は小学生としての自覚を持って小学生としての行動をとる、中学生は中学生としての自覚を持って中学生としての行動をとる、高校生は高校生としての自覚を持って高校生としての行動をとる、大学生は大学生としての自覚を持って大学生としての行動をとる、大学院生は大学院生としての自覚を持って大学院生としての行動をとる、専門学校生は専門学校生としての自覚を持ってそれにふさわしい行動をとる、そして、受験生は受験生としての自覚を持って受験生としての行動をとることが大事になります。
- (9)では、自覚を持つためにはどのようにしたらよいのでしょうか。先ほどお話したように、一番よいのは自分の今置かれている立場を自分自身に言い聞かせることです。受験生であれば、「自分は受験生である」ということを何度も何度も自分に言い聞かせるのです。このようにすると、一日でも早く受験生に成り切ることができ、受験生としての行動がとれるようになります。
- (10)ただ、その前に考えなければならないことがあります。それは、「自分は何のために受験をするのか、上の学校に行ってどんな勉強をするのか、上の学校で何がしたいのか、そこを卒業したあとはどうするのか、社会に出て働くのか、それともさらに上の学校に進むのか」を考えることです。つまり、現在学んでいる学校を卒業したあとの進路を考えるということです。すぐに働かないのであれば働くこと以外のどのようなことをするのか、働くのであれば「人は何のために働くのか」という働く意味を考えることが大事になります。「何のために働くのか」が明確でないと、「何のために勉強するのか」の答えも出てこないからです。
- (11)「何のために働くのか」というと、生活できるだけの収入を得るため、お客様や世の中の役に立つため、自己実現するためであると私は考えますが、皆さんは皆さんで考えていただければと思います。
- (12)そして最終的には、「人は何のために生きるのか」も考えたほうがよいですね。人の一生とは何なのか、自分はどのような一生を送りたいのか、さらに言えば、人は死んだあとにこの世に遺せるものがあるのかないのか、あるのであれば何が遺せるのかについて考えることも大事です。

(13)これを考える上で、内村鑑三先生が著した「後世への最大遺物・デンマルク国の話」(岩波文庫)を読まれるのもよいと思います。内村先生は、著作の中で、「お金」、「仕事」、「著作(作品)」、「教育(教え)」、このような生き方をした人がいたのだという「生き方」を後世へ遺すことができると述べています。

(14)このようなことを考えることによって「人は何のために学ぶのか」がわかり、それによって「何のために学校に行くのか・受験勉強をするのか」もわかってくると思います。すると、受験生としての自覚が高まり、充実した受験生活が送れると思います。

### 3. おわりに

少し難しい話になりましたが、今日は「自覚を持って過ごす」ことの大切さについてお話ししました。特に、大変な受験勉強を毎日続けている受験生の皆さんは、この辛い勉強を人生の中でどのようにとらえるのかを考えて、この夏休みを過ごしていただきたいと思います。身体に気をつけながら、頑張って勉強して下さいね。

- 2011年3月24日林明夫記 -